

# 令和2年度訪問型家庭教育支援推進事業 第1回専門講座

R2.11.24

田辺スポーツパーク

- 訪問カウンセリングの手法や家庭教育支援チームの立ち上げにあたって心がけるべき点など参考になった。
- 家庭教育支援チームをどのように構築していくか、組織していくかという点について参考になった。
- 福祉部局と教育委員会の壁をどのようにして無くしていくか、連携を強めていくかということについて参考になった。
- 現在の家庭が抱える問題の状況について、情報が手に入ってよかった。
- 家庭ノートチェック法のような手法を新たな支援の方法として取り入れられないか考えていきたい。



## 【家庭教育支援チーム】

- 支援員であり中学生の母でもある。「朝のあるある会話」は我が家の毎朝を見ているようである。明日から取り入れて見守りを頑張りたい。
- 家庭教育支援の手法「11本の柱」についてとても参考になった。
- 「今ドキの」支援の方法という視点が大事と再認識できた。
- コロナ渦における支援の方法が多様化している。家庭教育支援に取り入れられることがないか考えたい。
- 能動的に踏み込む必要性を感じた。



## 【社会教育関係職員】

- 今の世の中では、地域の包容力が下がっているなので、他の地域から地域へ入って来た家庭とつながりが難しい。訪問型家庭教育支援は必要と思う。

